



北ア焼岳北西 岩坪山(1900m) (積雪  
期ピークハント/縦走 / 槍・穂高・乗  
鞍)

by  
gekiyabu 

**日程 :**

2012年04月22日(日帰り)

**メンバー :**

gekiyabu

**天候 :**

曇り

**地図 :**



WEB SERVICES BY 

**標高グラフ :**

**コースタイム :**

5:04 車止め--5:12 斜面取り付き--5:24 北尾根--7:13 岩坪山 7:30--8:11 林道--  
8:14 車止め

**コース状況/その他周辺情報 :**

- ・ 登山道なし。登山ポストなし
- ・ たぶん無雪期は深い笹藪と予想され、雪のある時期しか登れない
- ・ 新穂高温泉スキー場跡に至る車道は入口で通行止め
- ・ ルート上に危険箇所は無いが尾根が広く下山時ルート注意
- ・ 山頂はピーク東端。樹林の間隙から西穂高が見えたが展望は悪い

 写真 :



中尾高原から見た大木場の  
辻～笠ヶ岳



笠ヶ岳拡大



中尾高原から見た岩坪山



施錠された車止め



崩壊地手前から斜面に取り  
付く



取り付いた斜面



作業道?が横切る



藪は薄い



北尾尾根に乗る。古い柵が  
ある



1362m峰



1350m鞍部からの登り



まだ雪は少ないし、気温が  
高くザクザクで無雪帯を登  
る方が楽



標高1500m付近から雪が  
つながるようになる



カモシカの足跡。多数目撃

標高1600m付近



標高1750m付近

標高1650m付近



標高1820m付近



標高1880m肩を超えて傾  
斜が緩む



岩坪山山頂(最高点)



岩坪山から見た槍穂



岩坪山から見た笠ヶ岳



岩坪山から見た大木場ノ辻



岩坪山から見た錫杖岳



下山は1350m鞍部より北  
に下った



藪は薄い



林道に出た

## 感想／記録 : (by gekiyabu)

### 概要

旧新穂高スキー場に通じる道から北尾根経由で往復。標高1500m以上で雪が連続するようになったが、それ以下は薄い笹で無雪期でも歩ける状態。気温が高く雪が腐ってスノーシューでも苦労した。傾斜はそれなりにきついが尾根が広く危険はない。ただ、尾根が広いいため下山時方向注意。三角点は最高部ではなく、雪が深く確認不能。最高点

は東端で樹林を通して槍穂が見えた。天気は下り坂で雨が降る直前だったが降られる前に下山できた。

100名山焼岳の北西尾根上にあるピークだが地形図に記載なし。登山道はなくほとんど登る人はいないが、積雪期の山スキーの記録はネットで発見できた。標高が高い所は深い笹藪が予想され、雪が残る今がチャンスだろうと出かけることにした。

中尾高原温泉地を上がり、北尾根下部を巻く林道の分岐に到着、手でどかせる車止めがあったがここは入らせてもらう。しかし数100m程で足洗谷を渡る橋が登場、ここには施錠された鎖がかかっていて一般車はここまで。路側に車を置いて出発。周囲に雪は皆無。今回は地形図で地形を見る限りは危険箇所は無いと思われるが、念のためピッケルだけは持つ。気温が高く雪質は最悪だろうからワカンではなくスノーシューとした。登りでの傾斜を考えての選択でもあった。

橋の上から錫杖岳や笠ヶ岳を見ることができる。大木場ノ辻の笹藪も今なら雪の下で楽々歩けるだろう。林道を歩き、尾根取り付きをどこにするか考えながら歩いていると崩壊箇所の工事現場に遭遇、その手前に何となく踏跡があったのでよじ登るが、これは水平に延びていたの諦めて適当に斜面を這い上がる。ここはかなりの傾斜で雪はないがピッケルが役に立った(使わなくても登れるけど)。藪は薄く無雪期でも問題なく登れる。

北尾根上に出ると牧場の柵のような物が登場、古くてほとんど破れているが、廃止されたスキー場の境界だろうか？ 柵はあっても道はなく、尾根上を適当に上る。僅かに雪はあるが離島のように離れ離れで使えないし、雪が緩んで歩きづらく、この程度の笹なら雪の上より藪の方が歩きやすかった。

1340m鞍部から再び登りにかかるが、尾根東直下に僅かに雪があるが積雪量は僅かでザクザクで登りでは苦勞する雪質なので無雪の薄い笹藪を登る。笹が雨で濡れていたら雪の上を歩いたほうが乾いていれば笹の方がずっと歩きやすい。同じ程度の植生がずっと続いたが、標高1600m付近で雪が連続するようになりスノーシューを装着。つぼ足だとズボズボ踏み抜く雪でスノーシューの効果は絶大だが、時々「落とし穴」が待ち構えていて場所によっては腰まで落ち込み、スノーシューを履いた状態では脱出に苦勞する。

尾根の傾斜は全体的に同じ程度が延々と続く。部分的に急な部分は左を巻いたりするが、危険箇所は無くスノーシューのままで順調に高度を稼ぐ。心配は地形よりも天候で、いつ雨が降り始めるのか心配でならなかった。雪の上なら雨に降られても許容範囲だが、濡れた笹藪は勘弁してもらいたい。標高1800mくらいまではほとんど落葉樹林

だったが、1800mを越えると徐々にシラビソが増殖し始め、最後はほぼシラビソばかりになった。

標高1850m肩を越えてなおも登り標高1880m肩でようやく山頂部の一角に辿りつき傾斜が緩んだ。山頂部は微妙な小ピークが林立するが奥に向かって緩やかな傾斜があり、山頂はまだ先らしい。重い雪に足跡を残しながら進んでいくと、広い山頂部の南東端が最高点と思える場所だった。ここでGPSの電源を入れると残距離は20mを切っており山頂だと確認。目印は皆無、台地の東縁なので東の樹林は少し薄く、場所を選べば西穂を中心とした槍穂の真っ白な山並みが見えた。ここで少々休憩。

下山も基本は往路と同じルートを下ったが、ショートカットのため1362m峰は登らずに鞍部から尾根を外れ、北に向けて斜面を下った。藪の程度は今までと同じで問題なし。地形図では破線で書かれた廃林道に出てから林道に無事到着。雨が落ちてくる前によかった。

---

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.  
<http://www.yamareco.com/>